

北条節句祭ガイドブック



加西市歴史文化遺産活用活性化実行委員会

ごあいさつ

このたび、文化庁の推進する「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」の一環として「北条節句祭活性化事業」が実施できることを、心より嬉しく思います。

北条節句祭は、播磨国三宮（旧懸社）である住吉神社とまちなみを舞台にして中世の典雅と勇壮をとどめた長い伝統と歴史に支えられた民俗行事です。「龍王舞」（県指定文化財）、宮廷の闘鶏行事にちなんだ「鶏合せ」（市指定民俗文化財）、典雅と優雅な「浦安舞」などが古式豊かに執り行われます。節句祭の見所は、伝統の神事と共に東郷・西郷二基の神輿の御旅、豪華絢爛と勇壮な14台の屋台巡行と奉納です。その屋台には、金糸銀糸で鮮やかに画かれた絵模様の「水引幕」、屋台の四面の鯱・鷺・獅子・海老などが金色に輝く「梵天」の飾り金具技術、純白や金色で絞り上げた「伊達綱」、明治時代の名工が刻んだ「狭間」などひとつひとつが一級の日本伝統美術工芸品として注目されています。

是非ご愛蔵のうえ、次世代に伝える伝統文化として、折にふれご活用いただければ幸いでございます。

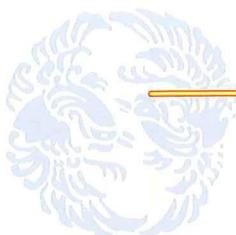
平成24年3月

加西市歴史文化遺産活用活性化実行委員会
会長 松本正光

例　　言

1. 本書は平成23年度文化芸術振興費補助金（文化庁文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業）を活用し加西市歴史文化遺産活用活性化実行委員会が主体となり作成しました。
2. 加西市歴史文化遺産活用活性化実行委員会は以下の団体により構成されます。
北条まちづくり協議会 北条節句祭連絡会 五百羅漢保存委員会 (宗)羅漢寺 (宗)住吉神社 住吉神社総代会 市村子供太鼓保存会 泉子供太鼓保存会、加西子供茶道教室実行委員会、加西歌舞伎クラブ、北条12区長会 加西市歴史街道ボランティアガイド 加西市教育委員会自己実現サポート課 加西市地域振興部ふるさと営業課
3. 表紙は、いしだ實氏の切り絵の提供をうけました。
4. 本書掲載の写真については、名田展大氏、松岡伸一氏、北条節句祭連絡会、姫路市書写の里・美術工芸館、屋台文化保存連絡会、廣畑印刷の提供をうけました。
5. 本冊子の作成にあたり、下記町の区長及び役員の皆様にご指導ご協力を頂いたことを記して感謝いたします。

本町 横尾 東高室 古坂 西高室 南町 栗田 御旅町 谷 小谷 笠屋町 西上野
市村 黒駒



目 次

1. 住吉神社	1	14. 古坂屋台	23
2. 北条節句祭	2	15. 西高室屋台	26
3. 神輿と駕輿丁	4	16. 南町屋台	29
4. 龍王舞	6	17. 栗田屋台	32
5. 鶏合せ	7	18. 御旅町屋台	35
6. 浦安の舞	8	19. 谷屋台	38
7. 御手供	9	20. 小谷屋台	41
8. 節句祭の装束	10	21. 笠屋町屋台	44
9. 屋台奉納の歴史	11	22. 西上野屋台	47
10. 布団屋台の歴史と名称	12	23. 市村屋台	50
11. 本町屋台	14	24. 黒駒屋台	53
12. 横尾屋台	17	25. 北条節句祭散策マップ	56
13. 東高室屋台	20		

住吉神社は、加西市北条町に鎮座し、播磨国三宮として広く朝野の崇敬を受けた旧懸社です。本殿は、三棟が東西に並び屋根は切妻、妻入の住吉造です。

養老元(717)年に山酒人が現在地に遷し、奉斎したといわれています。

『住吉大社神代記』(天平3(731)年)に記された住吉大神宮の所在九箇所の一社で、酒見大明神『住吉酒見社』と呼ばれていました。

明治時代に現在の『住吉神社』に改められました。

社殿は、幾度の兵火により荒廃していたところ、慶長5(1600)年に姫路城主の池田輝政の支援により復興されました。

現在の本殿(国登録有形文化財)は嘉永4(1851)年に再建されたものです。

境内中央には勅旨塚ちょくしづかといわれる築山つきやまがあり、節句祭にはここで「鶏合せ」とりあわ「龍王舞」りょうおうまいなど神事が行われれます。



北条節句祭

節句祭の始まりは、『酒見神社縁起』によれば、「当社の祭礼は毎年3月3日なり（新暦4月3日）安保3（1122）年これを始める」とあり、900年近い歴史を誇る播州の三大祭の一つに数えられています。

現在は、毎年4月の第1土・日曜日に改められました。

当社の祭礼には、「龍王舞」「鶏合せ」「浦安の舞」「御手供」の神事と共に「東郷・西郷2基の神輿の御旅」、豪華絢爛と勇壮の14台の屋台の巡行と奉納が見物です。

●神式スケジュール

宵 宮（土曜日）	本 宮（日曜日）
10：00 本社 祭典・浦安の舞	10：00 御旅所祭典・浦安の舞
12：00 屋台本社宮入	10：00 屋台御旅所宮入り
13：10 本社神事・神輿御靈渡し	13：00 龍王舞（東郷・西郷の順）
14：00 神輿出御・屋台宮出・祇園囃子	14：00 神輿御旅所より出御・屋台宮出し
14：30 御旅所祭典	14：20 本社浦安の舞
14：50 御旅所浦安の舞	15：30 加西あばれ太鼓の演奏
16：30 神輿・屋台御旅所宮入り	16：20 屋台本社宮入
18：30 屋台引き取り	18：20 神輿本社還御
	19：00 龍王舞（西郷・東郷の順）
	20：00 鶏合せ
	20：10 打ち別れ
	20：20（千秋楽）屋台の引き取り

節句祭屋台離子

住吉神社のお祭で
勇んでかこう諸共に
三柱筒男の大神を
勇め祭れよ里人や
酒見北条の鶏合せ
他にないぞえ此式は
神の御稜威を戴いて
御世も治まる楽さよ
氏子の榮を祈りつつ
寿ぎ祝う万々歳
千秋樂じや

アーヨーイヨイ
アヨヤサノサー
アーヨーイヨイ
アヨヤサノサー
アーヨーイヨイ
アヨヤサノサー
アーヨーイヨイ
アヨヤサノサー
アーヨーイヨイ
アヨヤサノサー
アーヨーイヨイ
アヤヨヤサノサー
万歳樂じや

神輿と駕輿丁

3

神輿は東郷と西郷の二基があります。

宵宮には南町の大年神社に御旅をされ、本宮には本社に還御されます。神輿出御に際して御手洗川(手前川)の手前でお祓いを受けた後御旅をされます。

神輿の昇当番は下記の順序となっており、明治時代からの変更はありません。

東郷神輿=北条(東郷)・横尾・栗田・古坂・西高室・東高室
・東南

西郷神輿=北条(西郷)・市村・黒駒・西上野・小谷・谷町
神輿昇人を駕輿丁といい、本駕輿丁4人・添駕輿丁32人の合計36人で昇ります。

本駕輿丁は、茶色の麻の狩衣にあげ羽蝶の大紋、鳥兜を被ります。

添駕輿丁は、浅黄色の木綿の襦袢に、東郷は「丸に二引き」、西郷は「丸に三つ巴」の紋に鶴型の兜を被ります。

平安時代から受け継がれてきたと考えられる駕輿丁の装束と神輿を捧げ持つ所作は、他の祭礼に例がなく由緒あるものといえます。



東神輿



西神輿

神輿渡御行列

往路

屋台 → 西神輿 → 保護者

舞姫

→ 役員 → 神職 → 楽人 → 舞姫 → 金幣 → 真榊 → 弓 → 東神輿 → 毛槍 → 旗
(8名) (4名) (5名) (4名) (4名) (2名) (14名) (19名) (4名)

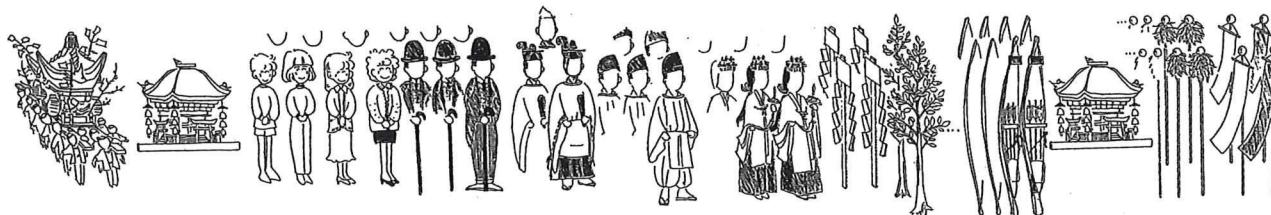
復路

屋台 → 東神輿 → 保護者

舞姫

→ 役員 → 神職 → 楽人 → 舞姫 → 金幣 → 真榊 → 弓 → 西神輿 → 毛槍 → 旗
(8名) (4名) (5名) (4名) (4名) (2名) (14名) (19名) (4名)

先頭



りょうおうまい
「龍王舞」(県指定民俗文化財)

本社及び御旅所では『龍王舞』が行われます。

龍王舞の起源は定かではありませんが、平安時代と推定される『鶴合せ』との一体の神事だったのではないかと考えられます。

『龍王舞』は、天孫降臨に際して猿田彦てんそんこうりんが道案内をしたといいういわれによるもので、赤い天狗面（鼻高面）てこうきやほんに鳥兜を被り、筒袖の上衣に赤袴をかけ、手甲脚絆草履履き、鉾を持ち笛・太鼓に囁かれて古代情緒たっぷりに舞います。

前半の舞いでは、道案内の部分にあたり、鉾を振り回し外敵を打ち払い動作をします。

後半の舞いでは、素手で舞い、異民族との話し合いを表現しているとのいわれがあります。

また、外敵を打ち払い喜びを表現するしぐさともいわれています。

舞うのは本宮の日のみで、御旅所では神輿の出御の前、本社では神輿の還御の後です。

舞い方は、東郷は栗田、西郷は小谷の青年が奉仕することと決められています。



「鶴合せ」(市指定民俗文化財)

『鶴合せ』は、本宮最後に行われる神事です。『神社由緒記』によれば、始まりは保安3（1122）年これを始め古式ゆかしい豊作祈願の行事で、保安3（1122）年これを始めるとあり、900年近い伝統行事です。

鶴は、日の出を告げることから靈鳥れいちょうとされ、平安時代の宮廷で年中行事として、闘鶴とうけつとして行われていたのが始まりであり、江戸時代に庶民に広がったといわれています。

毛槍やらいで矢来えほしが組まれ境内中央の勅使塚上において、東郷・西郷の執行者が、平安時代の雑色ぞうしきの装束・烏帽子・草履のいでたちで松明の幻想的な明かりに照らされる中、両者が雄鶴を高く差し上げて見合せます。鶴は相手の威嚇に動ぜず顔を逸らせず動かない方が勝ちといわれています。

古くは、勝った方から先に、奉納物の引き取りを行ったと伝えられています。

今日では神様の前で平和を祈り又加護を祈る儀式ともいわれています。

執行者は、西郷は西上野、東郷は横尾が奉仕すると決められています。



「浦安の舞」

1940（昭和15）年の「紀前二千六百年」を奉祝して国の繁栄と皇室の弥栄そして人々の安寧を祈念して全国の神社で始められたものです。

女性が神社に奉仕する唯一の神事です。

小学校6年生と中学校1年生の舞姫（巫女）が、笙、簞篥、竜笛、楽太鼓などの雅楽器の演奏により典雅な舞を披露します。

宵宮では本社と御旅所で、本宮では、御旅所と本社合わせて4回舞います。



御手供とは、古く朝廷で、3月3日の節の日に神様に供え物をし、水辺に出て身を清めたり、人形に穢れを移し災難を祓うことが行われていましたが、これが始まりだといわれている神事です。

神輿が本社に還御し、龍王舞が終った後に行われます。

御神酒は酒を入れた壺に御幣を立てたもので本駕輿丁が捧げ持ちます。

御手供の餅は箱に入れた2枚重ねの丸い餅に串をたてて御幣をつけたものです。

百膳の御供は、木の小片に赤飯を盛ったもので百膳を一つの台の上にのせます。

御手供の餅は添駕輿丁が、百膳の御供は宮世話人が参拝者の中を昇き廻り、神前に供え御祓いをします。

以前は、直会なおらいとして祭が終わった後、関係者が拝殿に整列し、御神酒と百膳の御供を頂きましたが、現在は各町に持ち帰っています。



(1) 神社役員・屋台奉納責任者の衣装

昭和20年以前は、羽織袴・中折帽・下駄でしたが、終戦後都会から食料との交換に持ち込まれた衣類の中のモーニングや山高帽を着用するものがあり、それが徐々に広がっていったのではないかと言われています。

過渡期には羽織、袴、下駄で山高帽をかぶるという和洋折衷のアンバランスな装いもありました。



(2) 屋台昇の衣装

長襦袢にセルの着物（今はウール）の着流しに地下足袋です。

明治45年の本町祭典規定に、「女装、頬被り、裸体、袒褐、着物を脱ぐことを禁止し、華美を競わないこと」とあります。

現在屋台を奉納するのは、以下の14地区です。

東郷=本町・横尾・東高室・古坂・西高室・南町・栗田・御旅町

西郷=谷・小谷・笠屋・西上野・市村・黒駒

屋台の奉納の始まりは、1800年代初め頃（江戸時代）と思われます。

当神社の記録によれば、「酒見神社普請、献上物多分に御座候」とあり、当時は屋台型のものとダンジリが混在していたように思われますが、数度の戦火により奉納物についての記録が残っていません。

明治時代に入ると、各地で豪華な屋台が作られるようになり、人々の関心が作りものやダンジリから屋台へと移っていました。

北条でも明治12年に本町が購入した屋台が評判を呼ぶと、その影響を受け明治15年に今の横尾屋台が作られ、その後続々と屋台が作られるようになり、奉納物の主流となっていきました。

その後一時衰退したものの、大正初期には、播州鉄道北条線の開通や酒見社の1200年祭が行われ、また神崎郡等で屋台奉納が禁止されたこともあって、北条の各町村が次々とそれらの屋台を買い求め、19台もの屋台が奉納されています。

しかし、大正中期になって、農村の経済状態がよくなると、反対に北条に屋台を高額で買い求めるに来るようになり、次々と売却され奉納屋台は減ってしまいました。

昭和10年の酒見寺の1100年忌、昭和11年の御旅所の落成式に合わせ屋台が購入され、現在につながる14台の屋台が奉納されています。

日中戦争から第2次世界大戦時には、昇手不足もあり屋台奉納は中止され、神事のみの祭となりましたが、昭和21年に再開され現在に至っています。

布団屋台の歴史と名称

太鼓を簡素な台に乗せて昇き廻る屋台(太鼓台)は、もともと神輿の御先太鼓や、祭りの開始を告げる起こし太鼓、あるいは触れ太鼓として行われていました。これに布団などを飾りつけたり、神殿・神輿・ダンジリなどの装飾をとりいれて布団屋台が登場したようです。

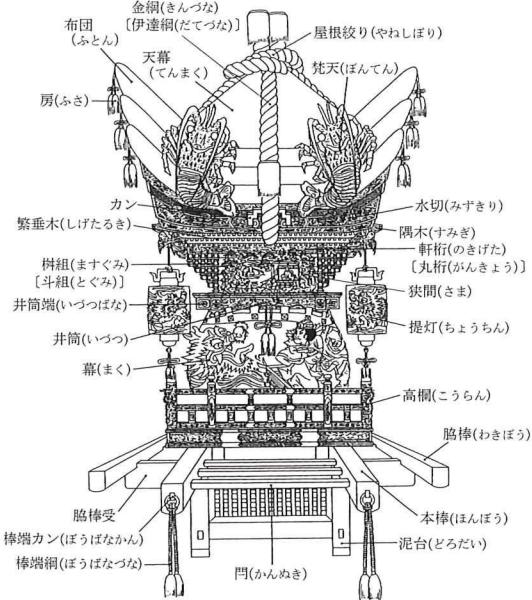
この布団屋台が大阪から瀬戸内地方を中心に広まっていき、各地で独自の形態を持つ屋台に発展してきました。

屋台は様々な種類のものがあり、そ反り屋根型布団屋台、平屋根型布団屋台、神輿屋根型屋台の3種類に分けられます。

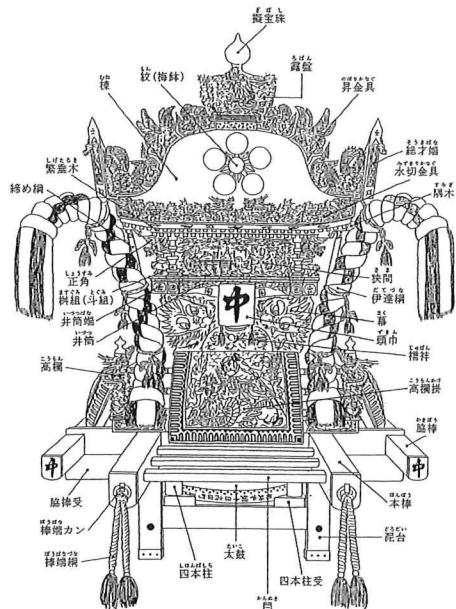
摂津方面から三木にかけては平屋根型布団屋台が、姫路方面では神輿屋根型屋台が発展し、加古川流域から市川流域にかけては平屋根型布団屋台の四隅が反り上がり、さらに神輿屋根の形状をとりいたるものへと発展し、現在の華麗な返り屋根型布団屋台が作られるようになったと考えられます。

播州地方での屋台の出現は、江戸時代後期の文化年間で、以降播州一円に広がりはじめ、現代の屋台の型は安政年間に確立されたと考えられます。

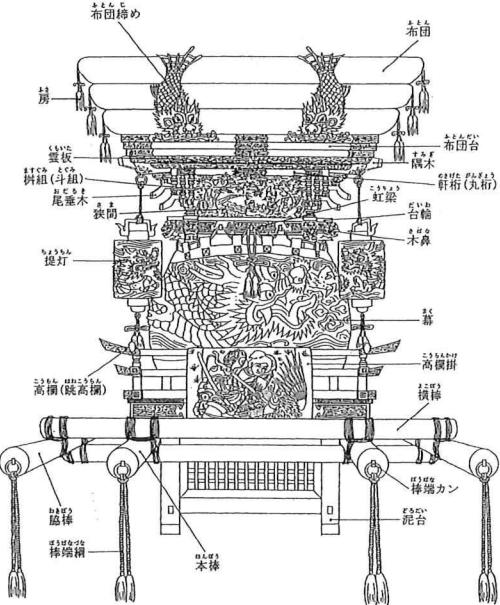
屋台は播州地方の瀬戸内海沿岸部を中心に、加古川流域、市川流域その内陸部と四国の瀬戸内海沿岸部に分布しており、総数は3,000台以上あり、兵庫県内には600台以上あるといわれています。



返り屋根型布団屋台



神輿屋根型屋台



平屋根型布団屋台

(『播磨の祭礼』より転載)

1. 屋台の詳細

- ①梵天 前後に『孔雀』一対
ほんてん くじやく
- ②伊達綱 金色
だてつな きいろ
- ③水引幕 製作 川村刺繡
みずひきまく ししゅう
題材 『宇治川の先陣争い』
- ④布団 黒色
ふとん くろいろ
- ⑤狹間 作者 川原啓秀
けいしゅう
題材 『矢の根』
- ⑥昼提灯 『川中島の合戦』
ひるちょうぢん
製作 絹常 題材 『阿吽の龍』
しみずいちがく
『清水一学の勇戦』
あこうぎしりょうごくばしひきあ
『赤穂義士両国橋引揚げ』
あうん
『赤穂義士両国橋引揚げ』
あうん

2. 屋台の特徴・由緒・伝承

現在の屋台は昭和4（1929）年、姫路市白浜町松原の麦本屋台製作所に注文新調しました。

播州でもめずらしい孔雀の梵天が特徴的な屋台です。



本町狭間



矢の根



川中島の合戦



清水一学の勇戦



赤穂義士両国橋引揚げ

本町水引幕



(先代)



宇治川の先陣争い

1. 屋台の詳細

- ①梵天 前後に『海老』一対 右脇に『武者』
左脇に『靈峰富士』
- ②伊達綱 正絹の白色
- ③水引幕 製作 川村刺繡
題材 『浦島』
- ④布団 色 黒色
- ⑤狭間 作者 花岡正一
題材 『楠公父子訣別桜井駅』
『曾我夜討』『矢の根』
『赤松弾正と長山遠江守の血戦』
- ⑥昼提灯 製作 川村刺繡
題材 『栄壽』



2. 屋台の特徴・由緒・伝承

明治15年に作られた屋台で、最も古い形式を伝え、酒見北条の王様と自慢します。

重量も最大級というのが特徴です。現在の屋台は昭和56（1981）年に骨組を除いて改修しました。

横尾狭間



矢の根



赤松弾正と長山遠江守の血戦



楠公父子訣別桜井駅



曾我夜討

横尾水引幕



(先々代)

加藤清正虎退治・素戔鳴尊大蛇退治



(先代)



浦島

ひがしたかむろ
東高室屋台

13

1. 屋台の詳細

①梵天	ほんてん	前後に雌雄の『鷺』一対
②伊達綱	だてつな	白色
③水引幕	みずひきまく	製作 絹常
④布団間	ふとんまеж	題材 『浦島』
⑤狭間	せまいま	色 黒色
⑥昼提灯	ひるちょううちん	作者 鎌田秀一ほか 題材 『宇治川の先陣争い』 『伍子胥』 『佐久間玄蕃秀吉本陣乗込』 『金龍武王を護る』 製作 絹常 題材 『阿吽の龍』



2. 屋台の特徴・由緒・伝承

屋根しおりは全国でも珍しい男結びです。水引幕の龍の鱗は「一枚鱗」です。

現在の屋台は昭和10年に姫路市豊富町から購入しました。

東高室狭間



宇治川の先陣争い



伍子胥



佐久間玄蕃秀吉本陣乗込



金龍武王を護る

東高室水引幕



浦 島

(姫路市書写の里・美術工芸館写真提供)

1. 屋台の詳細

①梵天	はんてん	前後に『鯱』一対
②伊達綱	みずひきまく	金色
③水引幕		製作 川村刺繡
④布団	ふとん	題材 『安芸の宮島と平清盛』
⑤狭間	ささま	色 黒色
⑥昼提灯	ひるちょうぢん	作者 花岡正一
		題材 『大江山一源頼光の木渡り』
		『渡辺綱羅城門の鬼退治』
		『天神記 尊意僧正』
		『菅原伝授手習鑑一車引き』
		製作 川村刺繡 題材 『阿吽の龍』



2. 屋台の特徴・由緒・伝承

他の屋台より一段多い四軒繁垂木が特徴で、播州屋台でも数台しか残っていません。高欄四隅の宝珠柱（男柱）には、靈龜が配されています。

屋台本体は、明治中期に現姫路市別所町の大工・大西嘉七郎が造ったといわれています。屋台前後に輝く鯱の梵天は播州の鎌職人の下間清平の作です。

古坂狭間



渡辺綱羅城門の鬼退治



大江山 源頼光の木渡り



天神記 尊意僧正



菅原伝授手習鑑 車引き

古坂水引幕



(先代)



(先代)



安芸の宮島と平清盛

1. 屋台の詳細

①梵天	ほんてん	前後に『唐獅子』一対
②伊達綱	だてづな	金茶色
③水引幕	みずひきまく	製作 絹常
④布団	ふとん	題材 『安芸の宮島と平清盛』
⑤狭間	ささま	色 黒色・天幕は白色
⑥昼提灯	ひるちょううちん	作者 花岡義一 題材 『朽木』『宇治川の先陣争い』 『巴御前の勇戦』『安宅の関』 『夫婦岩』

2. 屋台の特徴・由緯・伝承

西高室は屋台前後に輝く唐獅子の梵天が特徴です。

「牡丹に唐獅子、竹に虎、アヨイヨイ」という屋

台囃子はこの梵天の特徴から取り入れたといわれています。明治24（1891）年頃は御輿屋根型屋台でしたが、現在の屋台は昭和10年に新たに購入しました。



西高室狭間



朽木



巴御前の勇戦



宇治川の先陣争い



安宅の関

西高室水引幕



安芸の宮島と平清盛

1. 屋台の詳細

①梵天

前後 『荒鷺一対と兎』
 脇 『金扇に鶴と太陽』

②伊達綱

金色

製作

絹常

題材

『義経八艘跳』

③水引幕

色 紺色・天幕は水色

④布団

作者 花岡義一

題材 『小督局琴ノ曲』『張良と黄石公』

⑤狭間

『戻り橋の鬼』

題材 『大江山一源 頬光の木渡り』

⑥昼提灯

題材 『阿吽の龍』



2. 屋台の特徴・由緒・伝承

紺色の布団屋根に水色の天幕が特徴です。神崎郡内より現在の屋台を購入しました。

このとき担いで帰ってきましたが、途中市川の橋を渡ろうとしたところ橋が小さくて通れなかったので、川の中を担いで渡ったと伝えられています。

南町狭間



張良と黄石公



小督局琴ノ曲



大江山—源頼光の木渡り



戻り橋の鬼

(姫路市書写の里・美術工芸館写真提供)

南町水引幕



義経八般跳

(姫路市書写の里・美術工芸館写真提供)

南町飾り金具

丸桁



鷦と猿



ツカ柱



常夜長鳴鶏

井筒通



雌雄亀



井筒端



緑框



牡丹唐草

(左) 波に兎 (右) 卵の花に兎

(屋台文化保存会写真提供)

1. 屋台の詳細

①梵天	前後	えび	『海老』一対	脇	ほうおう	『鳳凰』
②伊達綱	金色					
③水引幕	製作	きぬつね	絹常の弟子			
④布団	題材	あき	みやじま	たいらのきよもり		
⑤狭間	色	紫色	『安芸の宮島と平清盛』			
⑥昼提灯	作者	久保經一長正				
	題材	きんりゅうぶおう	『金龍武王を護る』	まも	『戻り橋の鬼』	
		めがまごさぶろう	『妻鹿孫三郎』			
		だんじょう	ながやまとおとうみのかみ		『赤松彈正と長山遠江守の血戦』	
		あうん	あく		『阿吽の龍』	

2. 屋台の特徴・由緒・伝承

先代の屋台は、大工大西嘉七郎作で、神崎郡市川

町瀬加村から購入しました。このとき、瀬加村より屋台を馬力（荷馬車）に乗せて辻川交番まで持ち帰って来たところ、“無許可でこんな長い大きなものを運ぶとは何事か”と降ろされてしましました。しかたなく一晩留め置き、翌日に村中総出で担いで帰ったと伝えられています。

現在の屋台は昭和40年代に多可町より購入しました。



栗田狭間



戻り橋の鬼



金龍武王を護る



赤松弾正と長山遠江守の血戦



妻鹿孫三郎

栗田水引幕



安芸の宮島と平清盛

1. 屋台の詳細

①梵天	ほんてん	前後 ^{えび} 『海老』一対
②伊達綱	だてつな	白色
③水引幕	みずひきまく	作者 京都日本刺繡 ^{しじゅう}
		題材 『一ノ谷の合戦』
④布団	ふとん	色 紺色
⑤狭間	さま	作者 花岡義一 『神功皇后』『金龍武王を護る』 『天之岩屋戸の変』 『楠公父子訣別桜井駅』
⑥昼提灯	ひるちょうちん	題材 『鷹と鯉』



2. 屋台の特徴・由緒・伝承

現在の屋台は現姫路市別所町の大西嘉七郎が製作し、改修を重ね今に至っています。屋台金具は姫路市の川村商店が製作しました。

御旅町狭間



天之岩屋戸の変



神功皇后



金龍武王を護る



楠公父子訣別桜井駅

御旅町水引幕



(先代)



一ノ谷の合戦

1. 屋台の詳細

①梵天	前後	『海老』一対
	脇	『兎を掴む鷺』一対
②伊達綱	金色	
③水引幕	作者	川村刺繡
	題材	『龍虎』
④布団	色	黒色・天幕は白色
⑤狭間	作者	堤義法
	題材	『天之岩屋戸の変』『矢の根』 『おえやま みなもとのよりみつ きわたり』 『大江山一源 頼光の木渡り』 『宇治川の先陣争い』
⑥昼提灯	題材	『阿吽の龍』

2. 屋台の特徴・由緒・伝承

先代の屋台は大正時代のもので、当時の節句祭では最大級でした。太鼓は第2次世界大戦で供出されました。

現在の屋台は昭和10（1935）年に購入しました。



谷狭間



谷水引幕



(先代)



龍 虎

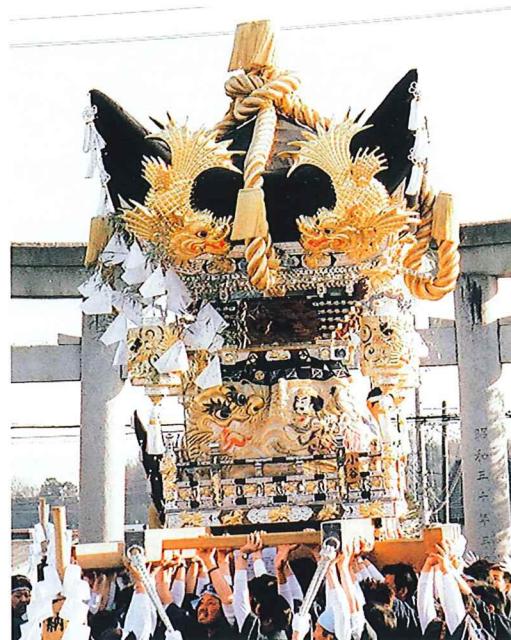
1. 屋台の詳細

①梵天	ほんてん	前後『鯱』一対	しゃち	脇『龍』
②伊達綱	だてつな			
③水引幕	みずひきまく	金色	きねつね	
④布団	ふとん	製作	きぬつね	絹常
⑤狭間	ささま	題材	あき	『安芸の宮島と平清盛』
⑥昼提灯	ひるちょうぢん	色	くろらしゃ	
		作者	黒羅紗	
		題材	川原啓秀	『天之岩戸の変』『矢の根』
			あまのいわやとへん	『よしてるにしき』『みはただっかん』
			きらてい	『村上義光錦の御旗奪還』
			あうん	『赤穂義士吉良邸討入り』
		題材	阿吽の龍』	

2. 屋台の特徴・由緒・伝承

梵天の鯱、水引幕の龍は一枚鱗です。先代の

屋台は明治時代後期に高砂市曾根方面より購入しました。その写真が、『住吉神社大祭典神輿及奉納物之図』(大正3(1914)年)に掲載されています。現在の屋台は昭和10(1935)年姫路市内より購入しました。この時、姫路市から黒駒の一本松付近まで馬力車に乗せ運びましたが、一本松から小谷までは太鼓を叩き、喜び勇んで力任せに担いで帰ったと伝えられています。



小谷狭間



天之岩屋戸の変



赤穂義士吉良邸討入り



矢の根



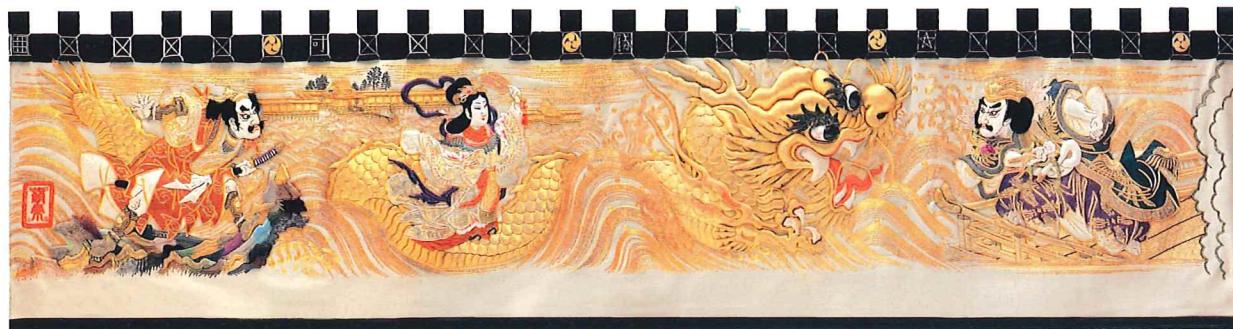
村上義光錦の御旗奪還

小谷水引幕



(先代)

(姫路市書写の里・美術工芸館写真提供)



安芸の宮島と平清盛

(株栄光社写真提供)

1. 屋台の詳細

①梵天

前後 『雌雄の飛龍』

脇 『飛龍』

②伊達綱

金糸(金色)

③水引幕

製作 絹常

④布団

題材 『龍の珠取り図』

⑤狭間

色 黒色・天幕は白色

作者 久保經一長正

題材 『楠木正成の戦い』

『曾我五郎時致 矢の根の場』

『弁慶と牛若丸』『熊坂長範の夜襲』

⑥昼提灯

題材 『阿吽の龍の絵巻』



2. 屋台の特徴・由緒・伝承

龍を主体にした装飾が特徴です。

現在の屋台は昭和21（1946）年頃に購入しました。

笠屋町狭間



楠木正成の戦い



曾我五郎時致 矢の根の場



弁慶と牛若丸



熊坂長範の夜襲

笠屋町水引幕



龍の珠取り図

1. 屋台の詳細

①梵天	ほんてん	前後	しゃち	『鯱』一対
		脇	たか	『鷹』一対
②伊達綱	だてつな	金色		
③水引幕	みずひきまく	製作	ししゅう	川村刺繡
			りゅうこ	題材『龍虎』
④布団	ふとん	色	黒色	
⑤狭間	さま	題材	みなもとのよりまさぬえたいじ	『源頼政鶴退治』
			なんこうふしけつべつさくらいのえき	『楠公父子訣別桜井駅』
			いかりとももり	『壇の浦合戦—碇知盛』
			だんじょう	ながやまととうとうみのかみ
⑥昼提灯	ひるちょうぢん	題材	あうん	『赤松弾正と長山遠江守の血戦』
				『阿吽の龍』

2. 屋台の特徴・由緒・伝承

おびれ しゃち ほんてん こうらん
 尾鰭を大きく広げた鯱の梵天と豪華な金銀の彩色が施された美しい朱塗りの高欄が特徴です。
 現在の屋台は姫路市豊富町方面より購入しました。



西上野狭間



赤松弾正と長山遠江守の血戦



壇の浦合戦　碇知盛



源頼政鶴退治



楠公父子訣別桜井駅

西上野水引幕



龍 虎

1. 屋台の詳細

①梵 天	前後 脇	し ゆ う 『雌雄の飛龍』 ひりゅう たか 『鷹』
②伊達綱	金色	
③水引幕	題材	『川中島の戦い』
④布 団	色	黒色、天幕は白色
⑤狭 間	作者	三代目松本義廣
	題材	『天之岩屋戸の変』 ともえごせん 『巴御前の勇戦』 ゆうせん 『神功皇后』 じんぐうこうごう 『楠公父子訣別桜井駅』 なんこうふしけつべつさくくらいのえき たか
⑥昼提灯	題材	『鷹』



2. 屋台の特徴・由緒・伝承

だてづな

伊達綱をメガネ型に結び、屋根飾りには、金・白・赤が配色されるのが特徴です。



天之岩屋戸の変



神功皇后



巴御前の勇戦



楠公父子訣別桜井駅

市村水引幕



川中島の戦い

(姫路市書写の里・美術工芸館写真提供)

1. 屋台の詳細

- | | | | |
|------|----------|----|------------------------------|
| ①梵天 | ほんてん | 前後 | わし『鷲』 |
| ②伊達綱 | だてづな | 金色 | |
| ③水引幕 | みずひきまく | 製作 | 川村刺繍 ししゅう |
| ④布団 | ふとん | 題材 | 『龍虎』りゅうこ |
| ⑤狭間 | ささま | 色 | 黒色 天幕は『市松模様』いちまつもよう |
| ⑥昼提灯 | ひるちょううちん | 作者 | 久保經一長正 ほりかわよう |
| | | 題材 | 『堀川夜討ち』あしがらやまと『足柄山の金太郎』きんたろう |
| | | | 『足柄山の金太郎』 |
| | | | 昼提灯の代わりに房が取り付けられています。 |

2. 屋台の特徴・由緒・伝承

屋根の中央に輝く大きな荒鷲の梵天が目を引き、四隅には大きな房を飾り、幕には胴締めの金綱を取り付け、屋根の天幕には白黒の格子柄を描いた市松模様を配しているのが特徴です。

水切金具の透かし細工が大変美しく、『加藤清正の虎退治』『牛若丸と弁慶』などの図柄が水切四隅に配されているのが特徴です。

現在の屋台は、大正元（1912）年頃に高砂市曾根方面より購入したと言われています。



黒駒狭間



足柄山の金太郎



堀川夜討

黒駒水引幕



(先代)

波に浜千鳥



龍・鬼

北条節句祭散策マップ



(『北条節句まつり散策マップ』を引用・改変)

北条節句祭のみどころポイント

- ①宵宮 12：00 14台の屋台の宮入りが見られます。
- 本宮 15：30 本社にて播州あばれ太鼓が始まります。
16：20 西郷の屋台・東郷の屋台の宮入りが見られます。
18：20 神輿本社還御の行事で祭りの華やかなクライマックスを迎えます。
20：00 「龍王舞」に続き、「鶏合せ」の伝統神事が見られ、祭りは千秋楽を迎えます。
- ②宵宮 14：30 14台の屋台が祇園囃で優雅に巡行します。
- ③本宮 15：00 屋台の差し上げが見られます。
- ④本宮 15：30 14台の屋台が並びます。
- ⑤宵宮 14：00 屋台の御旅所入りが見られます。
本宮 11：00 屋台の御旅所入りが見られます。
13：00 「龍王舞」が見られます。
- ⑥宵宮 15：00 屋台の差し上げが見られます。
- ⑦宵宮 13：30 14台の屋台が勢ぞろいします。写真撮影に最適です。







文化庁文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業

北条節句祭ガイドブック

2012.3

編集・発行／加西市歴史文化遺産活用活性化実行委員会